

## 序

昭和47年3月、明日香村平田に眠る高松塚古墳から色鮮やかな男女の人物像や日月星宿図、四神図の壁画が発見され、人々に驚きと感動を与えました。

古墳は昭和48年に特別史跡に、壁画は昭和49年に国宝に指定されました。地下に埋もれた状態にある絵画の国宝指定は前例のないものでしたが、国内外の専門家による保存・修理方法の検討の結果、発掘以前の環境を維持しつつ現地で保存することが最善であると判断され、爾来30有余年に及ぶ壁画の修理と保存の努力が積み重ねられてきました。

しかしながら近年、石室内の温度上昇とともに、壁画を汚損する恐れのある黴の発生や、石室内への虫の侵入、ダニの発生などが続き、壁画の保存環境の劣化が深刻な事態となっています。このため文化庁は、平成15年に「国宝高松塚古墳壁画緊急保存対策検討会」、平成16年に「国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会」を設置して、壁画保存環境の調査研究と壁画保存方法の抜本的な検討を進めてきました。

本書は、壁画保存環境の劣化原因の解明を目的に、文化庁の委託事業として平成16年度に実施した発掘調査の報告書です。壁画保存施設建設に伴う昭和49年の発掘調査以来、実に30年ぶりとなる発掘調査でしたが、築造時の古墳の規模や形態が明らかになるとともに、墳丘の後世の開削や周溝の埋没、大規模地震による墳丘版築層の損傷などが壁画保存環境の劣化と密接に関係することが明らかになりました。

発掘調査と併行しておこなわれた石室内の微生物調査では、ダニと黴の食物連鎖が認められ、壁画の生物被害が加速度的に進行する恐れが指摘されています。また石室壁面の漆喰層も、粉状化や中空化が進行し、剥落や崩壊の危機に直面しています。

こうした現状を受けて、平成17年6月27日に開催された恒久保存対策検討会において、石室を解体し壁画を修理することが決まりました。これは従来の保存方針の大きな転換であり、苦渋の決断でしたが、かけがえのない高松塚古墳壁画を後世に残すためには、やむを得ない選択であったと考えます。

現在、壁画の恒久保存方法の細部の検討が進められていますが、今回の発掘調査成果が、高松塚古墳壁画の再生に向けた解体修理計画の策定や、古墳の整備計画立案の基礎資料として活用されることを期待致します。

最後になりましたが、共同調査に参加いただいた奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会をはじめ、調査の実施にご協力を賜った奈良県教育委員会、国営飛鳥歴史公園事務所、発掘調査のご指導とご助言をいただいた研究者の皆様、関係諸機関に厚く感謝申し上げます。

平成18年3月31日

独立行政法人 文化財研究所  
奈良文化財研究所長

田 辺 征 夫